

2023年度

科目名称	病原ウイルス学
授業コード	BA352
英語名称	Pathogenic Virology
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	木所 稔 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	ウイルス感染症に対する正しい理解に基づいた感染症対策への的確な判断力を養うためにウイルスに関する基礎知識を習得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	ワクチンメーカーにおけるウイルスワクチンの開発、製造、および国立感染症研究所における国家検定、国際協力などの実務経験に基づいた具体的事例の紹介を交えた授業を行う。
到達目標	カリキュラムポリシー3の、専門性を高め多様な生命科学の問題や課題に対処する能力を養成するために必要な「バイオサイエンス系」科目群の専門科目である。ウイルス感染症に対する正しい理解に基づいた感染症対策への的確な判断力を養う。
計画・内容	第1回 何故ウイルス学を学ぶのか 第2回 ウイルスとは何物か 第3回 ウイルスの分類 第4回 ウイルスの増殖 第5回 ウイルス感染症 第6回 ウイルスと癌 第7回 ウイルス感染症の診断 第8回 ウイルス感染と免疫 第9回 ウイルス感染症の予防 第10回 ワクチンができるまで 第11回 ウイルス感染症の治療 第12回 パンデミック 第13回 ウイルス感染症の疫学 第14回 ウイルスの利用 第15回 新たなウイルス学
授業の進め方	CampusSquareによる課題の提出
能動的な学びの実施	授業内で行うまとめで授業内容の理解度をチェックすると共に、講義後に課す課題によって自宅学習を促す。
授業時間外の学修	授業前に配付資料をチェックすることにより授業内容の予習を行い、講義後は講義内容をノートに整理し、授業で課された課題を行う。(合計60時間程度)
教科書・参考書	講義ごとに資料を配付し、パワーポイントによって授業を行う。
成績評価方法と基準	授業ごとに課す課題の合計点(5点×15回=75点)と全講義終了後に提出するレポートの成績(25点)との合計(100点満点)で評価する
課題等に対するフィードバック	授業内で行うまとめと講義後の課題について解説することで授業内容への理解を促す。

2023年度

オフィスアワー	授業前20分 窓口教員：岩瀬礼子 先生
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoom等でweb上で講義を行う 課題レポートを課し、講義への出席とレポートの成績で評価する(出席:30%、課題レポート:70%)